

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000173		
法人名	社会福祉法人 北叡会		
事業所名	グループホームあるて きらら館		
所在地	江別市上江別476番地4		
自己評価作成日	平成29年3月14日	評価結果市町村受理日	平成29年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で安心した生活を送って頂けるよう、入居者それぞれの生活歴を把握し、一人ひとりの気持ちに耳を傾けゆったりと寄り添うケアに努めている。毎日の暮らしの中で入居者が主体的に取り組める趣味活動や運動の機会の確保、掃除や洗濯、調理などの家事も職員と入居者が一緒に行うことで残存機能の維持と「共に支え合う生活」の実現を目指している。医療面では協力医療機関との情報交換を密にし、体調不良時や緊急時にも速やかな対応が出来る体制を整えている。毎月両ユニット共同でミーティング、カンファレンスを実施しており、入居者に関する情報交換やケアの見直し、意見交換を行い、入居者、ご家族が安心できるサービス体制を整えられるよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2016.022.kan=true&JigyosyoCd=0191000173-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

江別市のJR高砂駅から徒歩圏内の自然環境豊かな場所に位置するグループホームである。敷地内に散歩道や東屋、パークゴルフ場を設置し、利用者が楽しめるようにしている。建物は2階建てで、1階は高齢者や障害者のデイサービス、2階が2ユニットのグループホームとなっている。廊下に天窓があり、居間は内側のテラスに面して明るく、快適である。周辺に住宅は多くないが、法人全体のお祭りに多くの住民が参加したり、幼稚園児やボランティアとの交流も多く、地域と良好な関係を築いている。法人として設備面や研修、各種書式、家族アンケートなどのバックアップ体制を整えているのも特徴である。1フロアに2ユニットがあり、ユニット間の連携がしやすく、ミーティングで職員同士の意思疎通もよくできている。家族対応の面では、アンケートの集計結果や対応内容を示したものを家族に提示したり、「あるての杜」全体のお便りと利用者ごとのお便りを毎月送付している。ケアマネジメントの面では、フェイスシートや生活歴シートを整備し、アセスメントシートを毎月更新して情報を蓄積してサービスに活かしている。排泄支援の面では、皮膚の弱い方は日中なるべく布パンツを使用するなど、きめ細かな支援を行っている。快適な環境のもと、利用者が生き生きと過ごすことのできるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域環境において、家庭的な雰囲気の中でゆったりと穏やかな時間を大切にするという理念を掲げている。	事業所理念とケア理念の両方に地域密着型サービスを意識した文言を掲げている。理念を各ユニットの共用部分に掲示し、職員は名札の裏に理念を携帯している。職員の理念のさらなる共有と理解を進める方針としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議やお祭り、戸外行事、近隣の保育園からの訪問やボランティア等の協力を頂き、地域の方々との交流、意見交換を行っている。災害発生時の地域住民との協力体制を設けており、避難訓練にも参加して頂いている。	法人の事業所が合同で行う夏祭りに地域の方が百名以上参加している。自治会のカラオケ大会に参加したり、幼稚園の夏祭りを見に行く利用者もいる。年に数回、詩吟や楽器演奏のボランティアが来訪して利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や高齢者、介護に関する資料を作成し、運営推進会議等で参加者と共に学ぶ機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施状況や発生した事故・その後の対策について毎回報告し意見を頂いている。会議の中で意見交換を行うことでサービスの向上に努めている。	運営推進会議を年6回開催し、地域包括支援センター職員、自治会役員、複数の利用者家族の参加を得て、地域交流や介護の基礎知識、嚔下・誤嚔、外部評価などをテーマに意見交換している。議事録や案内を家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当法人の月刊広報誌や運営推進会議の報告書を持参、情報交換を行いグループホームの状況を理解して頂けるよう、また相談しやすい関係作りを行っている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加するほか、会議の議事録を直接市役所に届け、その際に情報交換を行っている。その他、事業所の人員体制や事故防止について市役所に相談し、助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加、法人内での研修の実施、ミーティングの際に身体拘束の定義等について確認を行なっている。また、現場でも身体拘束に繋がるケアがないか都度話し合いを行っている。	身体拘束を行っておらず、禁止事項を示したマニュアルを用意し、年1回程度は勉強会を行い理解を深めている。1階の玄関は日中開いており、各ユニットからエレベーターホールへは出入りが自由である。ユニット出入口にセンサーをつけ、出入りが分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加、法人内での研修の実施、毎月のミーティングにおいて接遇や不適切ケアについて振り返りの時間を設けている。また日常の中でも職員間で不適切ケアについて話し合いが行われている。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加の機会はなかったが、制度をご利用されている利用者様もあり、内部での研修を開催し制度の理解を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時はご家族様と十分に話す時間を設けるよう心掛け、不安や疑問を解消出来るよう努めている。また、入居後は出来るだけ細やかに入居者の状況をお伝えし、相談しやすい関係構築に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やアンケートの実施、ご意見・ご要望に関する書式の配布をしている。入居者、ご家族から寄せられた意見に対しては速やかに臨時のミーティングを開催し、自部署のみならず法人として対応を検討していく体制を整えている。	家族来訪時に意見を聞くほか、文書での意見も得ている。年1回アンケートを行い集計結果や対応を示したものを家族に提示している。「あるての杜」全体のお便りと利用者ごとのお便りを作成し、毎月家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員との密なコミュニケーションに努めるとともにミーティングにて職員との意見交換の場を設け、意見、提案を聴き、検討する時間も設けている。	月1回、2ユニット合同のミーティングを行い、活発に意見交換している。年2回、個別面談を行い職員の意見を聞いている。職員は、行事や環境整備、備品管理、食材発注などの業務を分担して行い、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個人面談を実施し、職員個々の意見を聴く機会を設け不安やストレスを解消出来るような環境作りに努めている。勤務についても個人の事情や能力を考慮し負担とならないよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験に即した外部研修への参加を促し、法人内での研修報告において学びを深める機会を設けている。また、内部研修を毎月実施し、多くの職員に参加して頂けるよう積極的に呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームとの交流会を通じて意見・情報交換を行える機会を設けている。また2ヶ月に1回市内の各グループホームの管理者が集まる会に参加し、他施設への相談、情報交換の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係機関(居宅)や他施設の情報を確認後、ご本人と可能な限り時間をかけ面談し、些細な不安等を理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族、ご本人には出来るだけ入居前に当施設を見学して頂き十分な理解が得られた後に入居申し込み・入居へ繋げている。また、ご家族の利用に対する思いをお話して頂けるよう、面談等に働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人の意向を十分把握出来るよう、面談等でライフスタイルや望んでいる生活環境等を総合的に評価し、他のサービスの利用も考慮しながらサービスの利用に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者本位の姿勢を崩さず、これまでのライフスタイルを継続していけるような支援に努めている。家事・買い物等、入居者がやりたいこと、出来る事は参加して頂き共に生活すること、主体性、自己決定を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者の状況をお伝えするだけでなく、電話連絡や手紙等のツールも利用しながら情報共有に努め、意向を確認した上でケアの方向性を定めている。また出来る限りご家族にもケアに参加して頂けるよう面会や外出・外泊が入居者にとってどのような良い効果があるかお伝えしご協力頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者個々の生活歴や家族関係、友人関係を考慮し、楽しく過ごされていた時代や過去に暮らしていた地域について、明るく振り返りながら接するよう努めている。また外出や外泊をご家族に行き届けるようお伝えし、ご協力頂いている。	友人が来訪する利用者は現在1名となっている。利用者に年賀状が来た際は取り次いでいる。家族と一緒に喫茶店や買い物、墓参りに出かける利用者もいる。元農家の方は通院の際に水田の実り具合を眺めて懐かしんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや活動において、職員が介入しながら入居者同士が関わり合えるよう努めている。また、日常生活でも入居者同士が友好的関係を築けるよう、居場所の工夫等臨機応変に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居に至った方については、不安や心配事があった際はいつでも連絡して頂けるように声をかけ連絡体制を整えている。また、医療機関等との連携を図りながら、今後のサービス利用についての相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションからご本人の意向を聞き出せるよう努め、職員間で情報共有している。困難な方に関してはご家族から情報提供を頂き、ケアに活かせるよう努めている。	言葉での思いや意向の把握が難しい場合も、表情や過去の経験などをもとに把握している。フェイスシート、生活歴シートを整備し、アセスメントシートを毎月更新して情報を蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり、ご家族、入居前のケア担当者に協力して頂き、差し支えない範囲で過去の生活歴を口頭及び書面で聞き取るようにしている。またご本人との会話の中でこれまでのライフスタイルを確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングにて一人ひとりに合った活動内容の検討や受診経過の把握に努めている。また日々のケアの中で職員の気づきを大切にし入居者が有する力を発揮して生活出来るようケアに反映している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から入居者の意向や希望を引き出せるよう努めている。ご家族とは必要時ゆっくりと面談する機会を設け、要望や入居者に対する思いを傾聴している。情報を元にカンファレンスで検討しチームで介護計画を立てている。	3か月毎に介護計画を更新している。アセスメントシート、モニタリングシートをもとに評価を行い、会議を経て次の計画を作成している。日々の生活記録はケアプランに沿った内容を記す欄を活用しており、今後はケアプランの番号に合わせて記入することを検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にケアプランの実施状況や様子を記入し、情報共有している。ケアプランの変更が必要な際は担当者が中心となりアセスメントを行い、介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変わる入居者・ご家族の状況や心身の変化を柔軟に受け止め、対応の検討、その時のニーズに応じたケアを実践出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ等積極的に行い、入居者と共に楽しんでもらえるよう、当施設での行事案内等も地域へお声掛けさせて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を継続できるよう努めている。状態に応じてご家族が受診に同行されることもある。協力医療機関との情報共有も密に行い、突発的な受診もスムーズに行えるよう体制を整えている。	利用者のほとんどは提携医に月1回程度通院している。その他の医療機関は事業所で通院を支援することが多いが、受診科目によっては家族が同行している場合もある。受診内容を個人毎の受診記録表に記録し、職員間で共有している。	

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の心身の状態の変化等、情報を密に伝え相談している。頂いた助言は実施、評価し看護職員へバックし次へ繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携を取り、入居者の定期的な健康管理、情報共有を行っている。また、医師からご家族への病状の説明の際は同席させて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入所の事前説明の際に重度化に関する対応指針についての説明を行っており、理解して頂いている。体調や状態に変化があった際には医療機関と連携し対応している。	利用開始時に重要事項説明書と一緒に「重度化に関する対応指針」を説明し、同意書を得ている。現状では事業所での看取りは難しい旨を説明し、利用者や家族の理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の連絡体制を整え、職員へ周知している。また、学習会を行い、全職員が急変時の対応を行えるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中・夜間の避難訓練を行っており、避難経路や連絡体制、災害時の対応方法を全職員で確認している。また、地域の方へも参加頂けるよう声を掛けさせて頂いたり、自治会への応援要請も行っている。	今年度1回、日中想定訓練を消防署の協力のもと行っている。地域住民に呼びかけたものの参加は得られなかった。職員の救急救命訓練を計画的に進め、必要な備蓄品を準備している。地震や水害のマニュアルを職員間で共有している。	年2回を目途に避難訓練を行うことと、うち1回は夜間想定訓練を行うことを期待したい。また、訓練に地域の方の参加が得られるよう、場合によっては対象先を広げ、継続的に声かけを行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への言葉遣いやプライバシーの配慮について、職員間で注意し合えるよう努めている。また、ミーティングで接遇について考える機会を設けている。	3月に「接遇ビデオ研修」を行っている。「どこに行くの？」などの言葉かけには、その都度注意し、心に寄り添うことを指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日頃から入居者の思いを引き出せるよう傾聴の姿勢で取り組んでいる。小さなことでも自己決定を支援するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴の把握と都度の意向の確認を行ない、その人らしいその日の過ごし方を実現出来るよう、業務優先ではない柔軟な時間の使い方、対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	肌の手入れや化粧等を大切な習慣として捉え、継続出来るよう支援している。その日の入居者の気分好きな服が着られるよう配慮している。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の「やりたい」という気持ちを大切に、調理の際は職員と共に台所に入って頂くようにしている。食事については、個人の嗜好や味付けの好み等を伺いながら、出来る限り対応している。	法人の共通献立で調理済みの食事が届き、状態に応じて調理形態を変えている。食器拭きや米とぎをしたり、ホットケーキなどのおやつを手づくりしている。誕生会は、特別メニューで祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成したメニューに沿って調理し栄養バランスは取れている。また、職員が入居者様の嗜好を確認したり、検食を行う事で満足度の高い食事を提供出来るよう努めている。水分は個人のタイミングや嗜好に合わせた提供を心掛け、記録しながら管理し十分な水分量を摂取出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、確認と必要時介助、仕上げ磨き等行っている。口腔機能維持のため食前の嚥下体操やマッサージも行っている。毎晩義歯洗浄後、義歯消毒を行っている。必要時、訪問歯科にかかっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来る限りおむつではなくトイレでの排泄が出来るよう支援している。排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し自立に向けた取り組みをしている。	オムツを着用している利用者には、起床時にオムツを外し、布パンツと尿取りパッドでケアをする工夫をしている。交換する時は、皮膚の状態を観察し、炎症を予防している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取と適度な運動を心掛け、出来る限り自然な排泄が出来るよう工夫している。排泄チェック表で排便の管理を行い、必要時は医療機関へ相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やその日の体調に配慮しながら週に2回の入浴を実施している。個々のADLや疾患を考慮した入浴方法の検討、実施をしている。	本人の心身の状態に応じて、週2回は温浴を確保できるよう、曜日や時間帯は決めていない。嫌がる利用者には、清拭や足浴などを行っている。薔薇や柚子の香りの入浴剤を使い楽しめる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせた就寝準備を行っている。また、個々の体力を考慮し休息することが出来る支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はファイルに綴り、全職員が確認出来るよう周知している。体調に変化があった際は医療機関へ速やかに報告相談し、次の対応が出来る体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの希望や残存能力を考慮し、役割を持って毎日を過ごして頂けるよう努めている。職員は入居者の生活歴や性格等も配慮しながら家事、趣味活動、運動などの活動に参加して頂けるよう支援している。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間は戸外への散歩が難しくなるが、施設内を散歩するなど気分転換の時間を作れるよう工夫している。雪のない時期は外出行事や買い物、戸外への散歩等、入居者やご家族の希望に沿った支援が出来るよう努めている。	広大な敷地内にパークゴルフ場があり、散歩コースが設けられている。途中で休憩ができるよう東屋があるのでお茶を楽しむこともある。湯川公園の桜や錦山神社に紅葉狩りに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については入居者の状態に合わせた管理方法としているが、認知症があり、自己管理困難な状況となっている為、施設管理としている。ご本人から買い物等の希望があった場合は、家族の意向を確認しながら買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望する場合は、ご家族に確認を行なった上で電話や手紙でやりとりが出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自由に過ごせるよう、ゆったりとした間取りと休息出来る環境作りに努めている。共有スペースや廊下には入居者と共に制作した季節の飾り付けを行っている。トイレや居間等は小まめな清掃を心掛け、常に清潔を保てるようにしている。職員は自らが騒音とならないよう声のトーン等に注意すると共に、廊下の照明や温度設定にも注意し環境整備を行っている。	共用空間は、十分な広さがある和風の設えである。居間は、日差しが入る明るい空間で、ぬいぐるみや手づくりの日めくりが置かれている。車いす対応のトイレが2カ所あり、洗面所も広く使いやすい。廊下に天窗があり、自然光を感じることができる。外出の様子や一人ひとりの顔写真、手づくりの作品などを飾っている。法人の他事業所の協力を得て清掃を行い、清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは自由に過ごして頂けるよう入居者やご家族に日頃からお伝えしている。自分の落ち着く場所で入居者同士、会話を弾ませている姿もよく見られる。部屋で一人で過ごしたい時には無理なお誘いはせず、安全面に配慮しながら自由に過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家具や身の回りの使い慣れた物をご持参頂くようお願いしている。ご家族やペットの写真や、ご自分で作られた作品等を飾り、入居者が安心出来る空間となるよう配慮している。	自宅で使っていたベッド、筆筒、一人がけの椅子やソファなどの家具を持ち込んでいる。家族が写真や壁飾りなどを用意し、温もりのある居室づくりをしている。照明の紐を伸ばし、本人の意思で使えるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の状態に合わせ、共有スペースや居室の家具配置、建物内の手すりの位置等に過不足はないかミーティングやカンファレンス時に検討している。入居者やご家族にも意見を頂いたり相談出来る体制を整えている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000173		
法人名	社会福祉法人 北叡会		
事業所名	グループホームあるて あかり館		
所在地	江別市上江別476番地4		
自己評価作成日	平成29年3月14日	評価結果市町村受理日	平成29年4月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0191000173-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で安心して生活を送って頂けるよう、入居者それぞれの生活歴を把握し、一人ひとりの気持ちに耳を傾けゆったりと寄り添うケアに努めている。毎日の暮らしの中で入居者が主体的に取り組める趣味活動や運動の機会の確保、掃除や洗濯、調理などの家事も職員と入居者が一緒に行うことで残存機能の維持と「共に支え合う生活」の実現を目指している。
医療面では協力医療機関との情報交換を密にし、体調不良時や緊急時にも速やかな対応が出来る体制を整えている。毎月両ユニット共同でミーティング、カンファレンスを実施しており、入居者に関する情報交換やケアの見直し、意見交換を行い、入居者、ご家族が安心できるサービス体制を整えられるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. 大いに増えている 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域環境において、家庭的な雰囲気の中でゆったりと穏やかな時間を大切にするという理念を掲げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議やお祭り、戸外行事、近隣の保育園からの訪問やボランティア等の協力を頂き、地域の方々との交流、意見交換を行っている。災害発生時の地域住民との協力体制を設けており、避難訓練にも参加して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や高齢者、介護に関する資料を作成し、運営推進会議等で参加者と共に学ぶ機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施状況や発生した事故・その後の対策について毎回報告し意見を頂いている。会議の中で意見交換を行うことでサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当法人の月刊広報誌や運営推進会議の報告書を持参、情報交換を行いグループホームの状況を理解して頂けるよう、また相談しやすい関係作りを行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加、法人内での研修の実施、ミーティングの際に身体拘束の定義等について確認を行なっている。また、現場でも身体拘束に繋がるケアがないか都度話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加、法人内での研修の実施、毎月のミーティングにおいて接遇や不適切ケアについて振り返りの時間を設けている。また日常の中でも職員間で不適切ケアについて話し合いが行われている。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加の機会はなかったが、制度をご利用されている利用者様もあり、内部での研修を開催し制度の理解を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時はご家族様と十分に話す時間を設けるよう心掛け、不安や疑問を解消出来るよう努めている。また、入居後は出来るだけ細やかに入居者の状況をお伝えし、相談しやすい関係構築に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やアンケートの実施、ご意見・ご要望に関する書式の配布をしている。入居者、ご家族から寄せられた意見に対しては速やかに臨時のミーティングを開催し、自部署のみならず法人として対応を検討していく体制を整えている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員との密なコミュニケーションに努めるとともにミーティングにて職員との意見交換の場を設け、意見、提案を聴き、検討する時間も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個人面談を実施し、職員個々の意見を聴く機会を設け不安やストレスを解消出来るような環境作りに努めている。勤務についても個人の事情や能力を考慮し負担とならないよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験に即した外部研修への参加を促し、法人内での研修報告において学びを深める機会を設けている。また、内部研修を毎月実施し、多くの職員に参加して頂けるよう積極的に呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームとの交流会を通じて意見・情報交換を行える機会を設けている。また2ヶ月に1回市内の各グループホームの管理者が集まる会に参加し、他施設への相談、情報交換の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係機関(居宅)や他施設の情報を確認後、ご本人と可能な限り時間をかけ面談し、些細な不安等を理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族、ご本人には出来るだけ入居前に当施設を見学して頂き十分な理解が得られた後に入居申し込み・入居へ繋げている。また、ご家族の利用に対する思いをお話して頂けるよう、面談等に働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人の意向を十分把握出来るよう、面談等でライフスタイルや望んでいる生活環境等を総合的に評価し、他のサービスの利用も考慮しながらサービスの利用に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者本位の姿勢を崩さず、これまでのライフスタイルを継続していけるような支援に努めている。家事・買い物等、入居者がやりたいこと、出来る事は参加して頂き共に生活すること、主体性、自己決定を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者の状況をお伝えするだけでなく、電話連絡や手紙等のツールも利用しながら情報共有に努め、意向を確認した上でケアの方向性を定めている。また出来る限りご家族にもケアに参加して頂けるよう面会や外出・外泊が入居者にとってどのような良い効果があるかお伝えしご協力頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者個々の生活歴や家族関係、友人関係を考慮し、楽しく過ごされていた時代や過去に暮らしていた地域について、明るく振り返りながら接するよう努めている。また外出や外泊をご家族に行って頂けるようお伝えし、ご協力頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや活動において、職員が介入しながら入居者同士が関わり合えるよう努めている。また、日常生活でも入居者同士が友好的関係を築けるよう、居場所の工夫等臨機応変に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居に至った方については、不安や心配事があった際はいつでも連絡して頂けるように声をかけ連絡体制を整えている。また、医療機関等との連携を図りながら、今後のサービス利用についての相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションからご本人の意向を聞き出せるよう努め、職員間で情報共有している。困難な方に関してはご家族から情報提供を頂き、ケアに活かせるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり、ご家族、入居前のケア担当者に協力して頂き、差し支えない範囲で過去の生活歴を口頭及び書面で聞き取るようにしている。またご本人との会話の中でこれまでのライフスタイルを確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングにて一人ひとりに合った活動内容の検討や受診経過の把握に努めている。また日々のケアの中で職員の気づきを大切にし入居者が有する力を発揮して生活出来るようケアに反映している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から入居者の意向をや希望を引き出せるよう努めている。ご家族とは必要時ゆっくりと面談する機会を設け、要望や入居者に対する思いを傾聴している。情報を元にカンファレンスで検討しチームで介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にケアプランの実施状況や様子を記入し、情報共有している。ケアプランの変更が必要な際は担当者が中心となりアセスメントを行い、介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変わる入居者・ご家族の状況や心身の変化を柔軟に受け止め、対応の検討、その時のニーズに応じたケアを実践出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ等積極的に行い、入居者と共に楽しんでもらえるよう、当施設での行事案内等も地域へお声掛けさせて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を継続できるよう努めている。状態に応じてご家族が受診に同行されることもある。協力医療機関との情報共有も密に行い、突発的な受診もスムーズに行えるよう体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の心身の状態の変化等、情報を密に伝え相談している。頂いた助言は実施、評価し看護職員へバックし次へ繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携を取り、入居者の定期的な健康管理、情報共有を行っている。また、医師からご家族への病状の説明の際は同席させて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入所の事前説明の際に重度化に関する対応指針についての説明を行っており、理解して頂いている。体調や状態に変化があった際には医療機関と連携し対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の連絡体制を整え、職員へ周知している。また、学習会を行い、全職員が急変時の対応を行えるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中・夜間の避難訓練を行っており、避難経路や連絡体制、災害時の対応方法を全職員で確認している。また、地域の方へも参加頂けるよう声を掛けさせて頂いたり、自治会への応援要請も行っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への言葉遣いやプライバシーの配慮について、職員間で注意し合えるよう努めている。また、ミーティングで接遇について考える機会を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日頃から入居者の思いを引き出せるよう傾聴の姿勢で取り組んでいる。不安や帰宅願望等がある際は、その方に寄り添うケアを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴の把握と都度の意向の確認を行ない、その人らしいその日の過ごし方を実現出来るよう、業務優先ではない柔軟な時間の使い方、対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	肌の手入れや化粧等を大切な習慣として捉え、継続出来るよう支援している。その日の入居者の気分で好きな服が着られるよう配慮している。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	女性入居者様については職員と一緒に食器拭きや片付け等を行っている。食事については、個人の嗜好や味付けの好み、嚥下・咀嚼能力等を考慮しながら可能な限り対応させて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成したメニューに沿って調理し栄養バランスは取れている。また、定期的に職員が検食を行い、入居者様嗜好に合わせた食事を提供出来るよう努めている。水分は個人のタイミングや嗜好に合わせた提供を心掛け、記録しながら管理し十分な水分量を摂取出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、確認と必要時介助を行っている。口腔機能維持のため食前の嚥下体操を行い、嚥下機能維持を図っている。毎晩義歯洗浄後、義歯消毒を行っている。必要時、訪問歯科にかかっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来る限りおむつではなくトイレでの排泄が出来るよう支援している。排泄チェック表を使用し個別に排泄パターンを把握し自立に向けた取り組みをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取と適度な運動を心掛け、出来る限り自然な排泄が出来るよう工夫している。排泄チェック表で排便の管理を行い、必要時は医療機関へ相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やその日の体調に配慮しながら週に2回の入浴を実施している。個々のADLや疾患を考慮した入浴方法の検討、実施をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせた就寝準備を行っている。また、個々の体力を考慮し休息することが出来る支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はファイルに綴り、全職員が確認出来るよう周知している。体調に変化があった際は医療機関へ速やかに報告相談し、次の対応が出来る体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの希望や残存能力を考慮し、役割を持って毎日を過ごして頂けるよう努めている。職員は入居者の生活歴や性格等も配慮しながら家事、趣味活動、運動などの活動に参加して頂けるよう支援している。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間は戸外への散歩が難しくなるが、施設内を散歩するなど気分転換の時間を作れるよう工夫している。雪のない時期は外出行事や買い物、戸外への散歩等、入居者やご家族の希望に沿った支援が出来るよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については入居者の状態に合わせた管理方法としているが、認知症の為自己管理困難な方がほとんどで、施設管理させて頂いている。ご本人が望む金銭の使い方が出来るようご家族の意向を確認しながら買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望する場合は、ご家族に確認を行なった上で電話や手紙でやりとり出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自由に過ごせるよう、ゆったりとした間取りと休息出来る環境作りを努めている。共有スペースや廊下には入居者と共に制作した季節の飾り付けを行っている。トイレや居間等は小まめな清掃を心掛け、常に清潔を保てるようにしている。職員は自らが騒音とならないよう声のトーン等に注意すると共に、廊下の照明や温度設定にも注意し環境整備を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは自由に過ごして頂けるよう入居者やご家族に日頃からお伝えしている。自分の落ち着く場所で入居者同士、会話を弾ませている姿もよく見られる。部屋で一人で過ごしたい時には無理なお誘いはせず、安全面に配慮しながら自由に過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家具や身の回りの使い慣れた物をご持参頂くようお伝えしている。ご家族やペットの写真や、ご自分で作られた作品等を飾り、入居者が安心出来る空間となるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の状態に合わせ、共有スペースや居室の家具配置、建物内の手すりの位置等に過不足はないかミーティングやカンファレンス時に検討している。入居者やご家族にも意見を頂いたり相談出来る体制を整えている。		

目標達成計画

事業所名 社会福祉法人北叡会 グループホームあるて

作成日：平成 29年 3月 31日

市町村受理日：平成 29年 4月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練の回数および、地域の方の参加が十分ではない。	年2回の防災訓練を確実にいき、ご利用者の命を守る。	・防災訓練を運営推進会議などの日に行うことで地域住民の方にも参加して頂く。 ・夜間想定訓練を行う。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。